

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（令和3年度～令和7年度）
研究開発課題名	モダリティ別蛍光プローブ・イメージング法とがんモデルの選択及び最適化による薬物動態評価法の開発
代表機関名	国立がん研究センター
研究開発代表者名	安永 正浩

総合評価：優れている

【評価コメント】

本研究は、蛍光イメージング技術により、間質バリアや免疫抑制性腫瘍微小環境の違いを反映した PK/PD 解析が可能であることを示した点が評価できる。また、従来の「passive targeting」と「active targeting」を区別して評価するための代替手法となる ACES 法を開発し、DDS の作用機序や有効性をより解析できる基盤技術を構築した。さらに、これらの成果に基づく PK/PD 解析法及び ACES 法は、多数の企業との共同研究へと発展しており、その社会的・産業的意義も大きい。加えて、課題間連携においては、様々なシーズに対して有用なデータを提供し、各研究課題の推進に貢献した。

本研究において、間質バリアを介した抗ガン剤の到達性評価系を開発しており、今後は、さらなるデータの蓄積と検証を進めることで、本評価系の信頼性及び適用範囲を拡大し、多様な抗がん剤や DDS 製剤の体内送達効率を事前に予測・評価できる汎用的な基盤技術として発展することを期待する。

以上